

インタビュー コーナー

「健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態ではない。健康は基本的人権の一つである。」

(アルマ・マタ宣言から)、共に生きる。



沖縄プライマリ・ケア研究会 会長
仲本 昌一 先生

質問 1. 沖縄プライマリ・ケア研究会会長に就任されてからこれまでを振り返ってみてどのような感想をお持ちでしょうか。

我々沖縄プライマリ・ケア研究会は2009年8月8日に日本プライマリ・ケア学会九州支部地方会を開催するにあたり発足しました。初代会長を稲福全三先生に引き受けていただき、礎を築いていただきました。稲福全三先生は我々研究会の母体である日本プライマリ・ケア学会のさらにその生み親である「実地医家のための会」のメンバーであり、2000年の全国大会の際も「社会と共に歩むプライマリ・ヘルス・ケア」と題して沖縄県医師会が担当することにご尽力されました。その後のバトンを2012年3月31日から引き継いでおります。我々の目指している目標は1978年9月の第一回プライマリ・ヘルス・ケアに関する国際会議(WHO、UNICEF)で採択されたアルマ・アタ宣言に明確に示されており、「すべての人々に健康を」(Health For All)がスローガンになっています。その中で当研究会の私の役割は、これまでに大先輩が地道に守り築き上げた地域医療を敬意をもって若い医師に伝え・深め、更に若い医師にこれからの地域医療を担うプロフェッショナルとなる質の高い研修ができるようにすることだと思っています。

質問 2. 沖縄プライマリ・ケア研究会における最近の話題などをお聞かせ頂ければとおもいます。また今後の展望、課題などについてどのようにお考えでしょうか。

何ととっても最近の注目される話題を言え

ば、今年2月に厚生労働省の「専門医の在り方に関する検討会」でこれまでのような学会が独自に制度を作って認定する制度を改め、プログラム認定および専門医の認定を中立的な第三者機関が行い、併せて総合診療専門医が19番目の新しい基本領域の専門医となる報告書(素案)がまとまったことでしょうか。医師の偏在、医療崩壊が叫ばれる中、超高齢化社会を向かえ、在宅医療、介護の充実が望まれる今日、受け皿となる「総合医」の育成は国民が望むものでもあります。幸い世間と医療界、我々の親学会(日本プライマリ・ケア連合学会)の方向性が合致したものだと思っています。

以前より当学会は研修後のアウトカムとして僻地や離島の診療所でも活躍できる医師を養成するプログラムを提示しており、更に今回の第三者機関内の「ボード」で内科、小児科、外科、救急といった学会や医師会と一緒に連携し、オールジャパンとして実効性のある総合診療専門医制度を作れると良い機会ではないかと思っています。

一方では、総合医のマインドを持った医師集団を経過措置的に増やしていかないと、総合診療専門医は発展しないのではないのでしょうか？ 過渡的措置として他の学会とともに得意分野を持ち寄って、いまの医師にgeneralに対応できるような学習の場所を提供することも重要であり、当学会が先頭になって旗振り役をしなければならないと思っています。

質問 3. 定期的な勉強会・講演会等の開催等、活発に活動されておりますが、会の運営にあたってご苦労があればお聞かせ下さい。また会の構成、会員数を教えて頂けますでしょうか。

プライマリ・ヘルス・ケアの推進には多職種連携、チーム医療を無くしてはありえず、当然構成は多職種にわたり、医師 90、薬剤師 8、看護職 7、保健師 1、検査技師 1、その他医療関連職種（医療事務を含む）4名の計 110 人です。2～3 ヶ月に 1 回勉強会・講演会、ワークショップを開催しています。これまで取り上げたテーマには石飛幸三先生の提唱している高齢者の「平穏死」、山里将進先生の在宅医療、変形性膝関節症に対する「CB プレースと筋トリアプローチ」、「医師と薬剤師の連携について」、基本的なコミュニケーションスキルでは「臨床倫理」「ナラティブアプローチ」「ポライトネス・ストラテジー」など、他の会と重ならないような、当会ならではの（＝「地域医療、健康」を意識した）のものを、来る 5 月 31 日には当会総会終了後に大阪から NPO 法人 ささえあい医療人権センター COML（コムル）理事長の山口育子氏をお招きし、講演会を企画しています。医師会員の皆様、オープンな会でもありますので興味のある方はぜひご参加下さい。

会の運営にあたって苦労することは、何処もそうだと思いますが、会員が皆多忙であり、当会は特に多職種でもあり、皆が一同に揃うことはなかなか難しい状況です。しかし、十分な連絡とコミュニケーションが重要であり、IT をフル活用しています。メーリングリストで会員間の情報交換から講演会の準備、スケジュール調整などあらゆることをメールで行っています。もちろんホームページ（<http://naika.nakamoto-plan.com/~opcken/>）も公開しております。

質問 4. 県医師会に対するご要望等がございましたらお聞かせ下さい。

まず、沖縄県医師会医学会に感謝申し上げます。それは 2010 年 6 月 15 日

に分科会への加入についてご承認いただいたことです。その後県医学会総会等で一つの医療領域として認められるように研鑽することができ、活動の場も広がり、他分科会とも連携できますし、大きな刺激を受け励みになっています。

分科会承認に際しては当会が多職種の構成であることが審議され、「これからの医療を担うには多職種である団体もあり得る」とのご英断をされたと聞いております。九州支部ブロックの中で沖縄県だけであり、他県の地域支部・研究会も見習って同様な働きかけをする気運にあります。医師会活動のひとつに地域医療の充実があると思いますので、我々の活動と同じくするところが多いと思います。

要望としては、新医師臨床研修プログラムでは必修科目として 1 カ月の「地域保健・医療」の研修がありますが、最も「地域医療」の第一線で活躍している多くの開業、離島・僻地の医師が指導できる環境づくりを県医師会としてバックアップして欲しいと思います。

質問 5. 大変ご多忙の身であります、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

この質問には答え難いものがあります。日頃から健康によくはないことばかりしているものですから。特に酒が大好きで、毎日と言っていいほど晩酌をしています。居間にカウンター・バーをつくり、小さなワインセラーや製氷機も置き、酒の肴にもこだわり、いろいろと楽しむことが私の心の健康法です。最近、旅先や催事で愛用の Nikon D200 でスナップ写真を撮り、PC で加工してスライドショーを作ることになっています。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー 広報委員 本竹 秀光